

平成 30 年 6 月 21 日現在

機関番号：12601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12782

研究課題名(和文) インド・マハーラーシュトラにおける集団意識とカースト・ダイナミクスの学際的研究

研究課題名(英文) Collective consciousness and caste: dynamics of social groups in Maharashtra, India

研究代表者

足立 享祐 (Kyosuke, Adachi)

東京大学・附属図書館・特任研究員

研究者番号：70626324

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究が目指すところは「カースト」に代表されるインドにおける社会秩序のダイナミクスを明らかにすることにあつた。プロジェクトはマラーティー語圏を共通のフィールドとする若手研究者による学際的研究として実施された。研究の中で示されたのは、近代以降の「カースト」が植民地主義の影響を受けつつも、神話や儀礼、社会的・経済的権利、家譜を通じた組織化など、特有の諸要素で構成されている点である。近代以降「カースト」の名で呼称される様々なグループを結びつけている現地社会内部での集団原理は、これまで指摘されてきた以上に多元的・重層的である。今後、現地語資料に表れる社会的結合の諸相について更なる研究が要請される。

研究成果の概要(英文)：Social customs, matrimonial relationships, hereditary memberships and hierarchical structure in the local communities had been defined as 'caste' which was a self-consistent system peculiar to Indian society. The purpose of this project was to reconsider aspects of what has been called 'caste' in Marathi region. Kinship, vocational, fraternal, religious and stratified groups were uniformly treated under the name of 'caste'; nonetheless the principles of social cohesion actually inter-woven with each other.

This research project shows that in the terms of modern Marathi discursive space, the narrative of caste was multifaceted per se. The grounds for their argument were their mythological lineage, social customs maintained by the group and historical records of the family property. The notion of 'caste' will be reconsidered from a multi-dimensional perspective. We hereafter are required to disentangle the composite nature of social cohesion in the local society.

研究分野：南アジア地域研究・歴史学・ヒンディー語・マラーティー語

キーワード：インド カースト マハーラーシュトラ マラーティー語 インド学・宗教学 歴史学(社会経済史)
歴史学(社会思想史) 文化人類学

1. 研究開始当初の背景

インド社会を貫く身分的差別制度として「カースト」が存在すると語られて久しい。しかしながら、『マヌ法典』のヴァルナ観に代表されるような「カースト」が、数千年の間、変わることなく存在し続けたというような「停滞的」なインド社会観に基づくカースト論は、『叢書カースト制度と被差別民』(明石書店, 1994-95)等の学際的試みを通じてもはや塗り替えられつつある。

2. 研究の目的

本研究課題では、これまでの研究の蓄積を踏まえつつ、十分に顧みられてこなかったカースト集団自身による現状の承認・擁護と異議申立という内的な視点から、集団意識の再定義によるカースト的秩序の再編に関する実証的研究への手がかりを得ることを目標とした。

3. 研究の方法

前述の通り、現代においてはカーストを動的に捉える研究が主流となりつつある。従来の手法は、近代イギリス植民地期以来の浄・不浄、共食、通婚、職業といった基準を基に、「カースト制度」を理論化することに重点が置かれてきた。本研究ではそれらの基準そのものの成立を問い直しながら、社会集団が自集団をどのように意識し、カースト的秩序の再編にどのように参画したのか、という内側の視点を重点的に研究した。

カーストをめぐる自己意識の研究には、インド諸語の運用能力と領域横断的な研究が不可欠である。本研究ではマハーラーシュトラを研究対象とする若手研究者を中心に研究組織を構成した。マラーティー語に基づく共通の言語的・社会的環境を対象としつつ、中世から現代にいたる様々な記述をそれぞれの学問分野の観点から学際的に検討することを目指した。

4. 研究成果

植民地主義の到来以降、インド社会における通婚関係、職業継承、位階の存在は「カースト」と名付けられ、インド固有の社会像へと位置づけられた。しかしながら南アジアに存在する親族組織、職能団体、隣保組織、友愛団体、宗教組織といった社会集団の構成原理は一様ではない。

近代以降の「カースト」に関わるマラーティー語による言語空間においては、ゴートラを含む集団の神話的起源に始まり、集団が維持する儀礼などの慣行、家産をめぐる歴史記録、クラを結節点とする個人の氏族に対する帰属など、従来

知られている以上に多面的な要素が「カースト族譜」として記述されている。

3年間の研究プロジェクトの中で足立は、研究代表者として、歴史学、別けても社会思想史の観点から、マラーティー語「カースト族譜」を取り上げながら、そこで用いられる議論の多様性を示した。また18世紀初頭の揺籃本期から20世紀初頭の独立運動期にかけての、マラーティー語カースト文献についての書誌学的調査を行い、既存の研究の欠落を補うとともにその歴史的变化を提示した。

研究分担者の井田はインド学・宗教学的手法に基づき、文献資料における出家の問題を取り扱った。出家者によるアーシュラムやマトが民衆に開かれていく中、アジールとしての僧院・聖地の力学とともに村落共同体にたいする帰属と宗教集団の関係性に取り組んだ。

同じく小川は、歴史学、なかでも社会経済史学の手法で、中世・近世史記録を保持するプネーのペーシューワー文庫所蔵文書における職と家産の記録を分析した。小川の研究は、小谷らが提示した職と権利をめぐる「ワタン体制」論を職能集団の重層性という観点から更に深化させ研究する手がかりを得つつある。

松尾は人類学的手法、ならびにマラーティー語雑誌の記述に基づき、バースコントロールを巡る思想の展開について研究を行った。カースト集団としてのチトパーワン・バラモンにバースコントロールの思想が広がる中、従来の血縁としての意識に加え、新中間層としての階級意識が形成されていった点を明らかにした。

今後は、マラーティー語圏における宗教・職能・血縁・地縁といった、社会集団を構成する諸原理を一旦解きほぐしつつ、「カースト」なるものの諸相について再検討を行うことが求められる。多様な社会的結合・集団化が配置され、それらを構成してく諸原理の複合的な関係に焦点をあてていくと同時に、個人が社会集団という形で絡め取られながら、カーストへと結び付けられていく過程を詳らかにする必要がある。

本研究課題の追究においては、インド・プネー大学歴史学部との共同プロジェクトが立ち上げられた。2017年、および2018年には、プネー大学において国際会議を開催した。これらの会議は現地紙 *Hindustan Times* において報道された。共同研究の成果を、英語・マラーティー語2言語による成果報告書として出版する計画を現在進めているところである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

(1) 井田克征『『エークナーティール・バーグヴァット』における神の化身について』、『インド学仏教学研究』, 65(1), 2016. pp. 249-254.

(2) 小川道大「学会近況・マハーラーシュトラ州におけるダリの実像—その社会的・歴史的多様性」、『南アジア研究』, 27, 2016. pp.151-156.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjasas/2015/27/2015_151/pdf

(3) 松尾瑞穂「サブスタンスから個と集団の関係性と範疇化を考える」、『民博通信』, 153, 2016. pp. 12-13.

[学会発表] (計 32 件)

(1) Kyosuke Adachi, 'Development of Caste Genealogy Books in Modern Maharashtra'. "JSPS bilateral seminar on 'Caste formation in Modern India', Savitribai Phule Pune University, Pune, India", 2018.

(2) Ogawa Michihiro, 'Construction of Caste in the Early Modern Maharashtra'. *Ibid.*

(3) Matsuo Mizuho, 'The Formation of Class in Modern Maharashtra: Birth Control Movements and the Emergence of New Middle Class'. *Ibid.*

(4) 松尾瑞穂「高カースト女性にとっての公的世界とその経験—ポスト独立期インド社会の変化」MINDAS「南アジアにおける社会変動と親密圏」第一回研究会(国立民族学博物館), 2017.

(5) 井田克征「14世紀マハーラーシュトラ北部におけるマハーヌバーヴ教団について」近世南アジアの文化と社会: 文学・宗教テキストの通言語的比較分析研究会(東京外国語大学), 2017.

(6) 井田克征「中世マハーラーシュトラのバクティ教団における出家者の実像」「グラフィズムとヒンドゥイズム: 南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」第3回シンポジウム「古代・中世インドの神話、説話、表象」、京都大学, 2017.

(7) 井田克征「聖者と社会: 群衆に向かって開かれること」現代アジアにおける聖者崇拜の諸相研究会「共催国際哲学研究センター「南アジア思想・文化」研究会」、東洋大学, 2017.

(8) Kyosuke Adachi, 'Genealogy and Historiography: A Preliminary Study of Historical Writing on Castes', JSPS bilateral seminar on 'Caste formation in Modern India, Savitribai Phule Pune University, 2017.

(9) Ogawa Michihiro, 'Construction of Caste in the early Modern Maharashtra', *Ibid.*

(10) Matsuo Mizuho, 'From Caste to Class: Formation of Social identity in Birth Control Movements in Modern Maharashtra', *Ibid.*

(11) 足立享祐「カースト文献と歴史叙述: 論点整理と研究上の課題」日本学術振興会二国間交流事業「近代マハーラーシュトラにおける近代カースト観の形成」国内研究会(金沢大学), 2017.

(12) 小川道大「18-19世紀におけるカースト動態〜不可触民に注目して」, 同上.

(13) 松尾瑞穂「チットパーヴァン・バラモンの始祖伝説とカースト団体」, 同上.

(14) 足立享祐「カースト族譜に見る『アールア神話』と運動の戦略」東京外国語大学海外事情研究所特別研究員報告会, 2016.

(15) 足立享祐「マハール募兵問題をめぐる植民地的近代と神話的歴史観」インド・マハーラーシュトラにおける集団意識とカースト・ダイナミクスの学際的研究研究会(金沢大学), 2016.

(16) 小磯千尋「ワールカーリーサントの食における浄・不浄観」, 同上.

(17) 井田克征「マハーヌバーヴ派初期聖典に見られる村落社会とカースト」, 同上.

(18) 小川道大「18-19世紀のインド西部のバルテー職人」同上.

(19) 飯田玲子「ジャーティー語りの揺れとタマシギールの生存戦略」, 同上.

(20) 松尾瑞穂「チットパーワン高齢女性のライフヒストリーから見る社会変化」, 同上.

(21) 松尾瑞穂「女学生、良妻賢母、『意義ある仕事』—高カースト女性にとっての家族と公的世界」日本南アジア学会第29回全国大会(神戸市外国語大学), 2016.

(22) 松尾瑞穂「インドのサブスタンスにみる個と集団のつながりの動態」現代南アジア地域研究2016年度第1回合同研究会(国立民族学博物館), 2016.

(23) 松尾瑞穂「インドにおける血の隠喩—カーストと優生学の交差」共同研究会「グローバル化時代のサブスタンスの社会的布置に関する比較研究」(秋田大学), 2016.

(24) 足立享祐「『尚武の民』理論とマハール募兵問題—カーンブレーShivram Janba Kambleの活動を中心に—」NIHU プログラム現代インド地域研究(龍谷大学拠点)研究会「マハーラーシュトラ州におけるダリトの実像:その社会的・歴史的多様性」(龍谷大学), 2015.

(25) 小磯千尋「サントの浄・不浄観とダリト」, 同上.

(26) 井田克征「ケーシャヴ・ナーヤクの井戸:中世聖者伝におけるダリト像」, 同上.

(27) 小川道大「18—19世紀のマハール集団の内部構造」, 同上.

(28) 飯田玲子「タマーシャの継承と再生産—タマシギールとは誰のことか?」, 同上.

[図書](計10件)

(1) 足立享祐「植民地期におけるカースト表象」インド文化事典編集委員会編『インド文化事典』, 丸善出版, 2018. Pp.48-49.

(2) 足立享祐「『尚武の民』理論とマハール募兵

問題—カーンブレーShivram Janba Kambleの活動を中心に」『マハーラーシュトラ州におけるダリトの実像—その社会的・歴史的多様性』龍谷大学南アジア研究センター, 2017. pp.56-67.

(3) 小磯千尋「ワールカーサントの浄・不浄観とダリト」, 同上書, pp. 5-18.

(4) 井田克征「ケーシャヴ・ナーヤクの井戸:中世聖者伝におけるダリト像」, 同上書, pp. 19-40.

(5) 小川道大「18-19世紀のマハール集団の内部構造」, 同上書, pp. 41-55.

(6) 小川道大「18世紀後半-19世紀前半におけるインド西部の職商集団に関する一考察—マラーター同盟宰相政府の税制史資料に注目して」太田信宏(編)『前近代南アジアにおけるまとまりとつながり』, 2017.

(7) 飯田玲子「タマーシャの継承と再生産—タマシギールとは誰のことか?」, 前掲『マハーラーシュトラ州におけるダリトの実像』, pp. 68-80.

[その他]

ホームページ等

(1) “Caste system fossilised, finds Pune study”, in *Hindustan Times*, Mar 11, 2018.

<https://www.hindustantimes.com/pune-news/caste-system-fossilised-finds-pune-study/story-3U9LCCnZnyjRn6EcjomWIO.html>

(最終閲覧日 2018年6月8日)

6. 研究組織

(1)研究代表者

足立 享祐 (ADACHI, Kyosuke)
東京大学・附属図書館・特任研究員
研究者番号:70626324

(2)研究分担者

井田 克征 (IDA, Katsuyuki)
金沢大学・国際文化資源学研究センター
・客員研究員
研究者番号:60595437

小川 道大(OGAWA, Michihiro)
金沢大学・国際基幹教育院・准教授
研究者番号: 30712567

松尾 瑞穂 (MATSUO, Mizuho)
国立民族学博物館・超域フィールド科学
研究部・准教授
研究者番号:80583608

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

小磯 千尋(KOISO, Chihiro)
飯田 玲子 (IIDA, Reiko)
山崎 利男 (YAMAZAKI, Toshio)
内藤 雅雄 (NAITO, Masao)
小谷 汪之 (KOTANI, Hiroyuki)
Shraddha Kumbhojkar (Associate Professor,
Savitribai Phule Pune University, India)